

【英米言語文化学科】

・英米言語文化学科の英語面接とはどのような形式で行うのですか？

日本語面接の中で英語面接の時間も設けています。英語による質問に対して英語で答えてもらう質疑応答形式です。

・英米言語文化学科での英語での面接はどの程度の英語のレベルが必要か知りたいです。

面接官からの英語による質問に対して英語で答えてもらう質疑応答形式です。そのため、まずは英語を聞き取る力が求められます。つぎに答える力が必要です。簡単な英語で表現して構いません。たとえ語彙力が十分でなくても、相手に伝えようとする意欲が大切です。面接官はゆっくりと話します。高校までの英語の授業で学んだ会話表現を身に着けていれば、それほど心配することはありません。

・総合型選抜試験の英語面談ではどのような質問をされますか？

英語面接は、日本語面接の一部として行われるので、それまでの面接の話題や話の流れにもよります。通常は、受験生自身に関することを質問されるでしょう。

・アドミッションポリシーや/試験内容などについて教えてください。

沖国大の英米言語文化学科のホームページ (<https://www.okiu.ac.jp/gakubu/sogobunka/eibei>) や「入試要項」に詳しい情報が掲載されていますので、そちらをご覧ください。

・英米言語文化学科の他の大学に負けない魅力などがあれば教えてください。

沖国大ホームページ (<https://www.okiu.ac.jp/>) に学科紹介の動画がいくつか掲載されており、実際に本学科で学ぶ学生たちの生の声を聴くことができるので、ぜひそちらをご覧ください。

・留学している人は多いですか？また、どのような制度で留学しているのですか？

はい。本学科の学生は留学への関心が高く、実際に留学する学生も多いです。沖国大には交換留学制度があり、約一か月間の短期プログラムと1年間の長期プログラムがあります。一方、大学の留学プログラムを利用せずに個人で留学先を見つけ、半年から1年間、休学して留学する学生もいます。1年生のときに先輩の留学体験談を聞く機会も設けられています。

・情報処理技術を高めるとは、具体的にどういったことですか？

コンピュータの基本操作、ワードやエクセル等の文書作成・計算ソフトウェアの基本操作、インターネットやオンラインツールの基本操作等、のことです。このような知識や技能を「英語情報処理」の授業、またはその他の科目を通して実践的に身につけてもらいます。

・科目の取り方について教えてほしいです！

大学では卒業に必要な単位数が決められていて、それを4年間かけて満たしていきます。科目には大きく分けて、所属学科で取るべき「専門科目」と、全学科の学生を対象とした「共通科目」があり、各科目に単位数が割り当てられています。学生は多様な科目群のなかから自由に科目を選択し、各自の時間割を組み立てます。

科目を選ぶ際には、「シラバス」と呼ばれる講義概要の一覧を見ながら選択します。「シラバス」には、たとえば「英語教育学」「翻訳研究」「アメリカ文学史」など、あらゆる科目の担当講師による講義概要やスケジュール、注意事項などが記載されています。学生はその一覧表から必要な情報を得て、各自の目的や関心に応じた科目を選びます。

・貴校の授業の様子や在学生の取っている授業について教えてください。

大学では多様な科目群が用意されており、科目によって授業の様子も異なります。たとえば100人以上の大教室での講義もあれば、20人規模のゼミもあります。ゼミでは学生による発表やディスカッションが中心になります。学生は各自の関心に応じて科目を選択するので、時間割の内容も様々です。在学生在がどんな科目を取っているのかについては、まずは沖国大ホームページの学科紹介ページをご覧ください。

・入学する生徒は初めから英語を流暢に話せる人が多いですか？

そういう人のほうが少数です。各学生のレベルに応じてスキルアップできるように、英語の基礎科目はいくつかの少人数クラスに分かれています。たとえば Oral Communication という英会話力を鍛えるためのクラスでは、All English の授業を通して徐々に話せるようになっていきます。

・英検を持っていない人でも合格することってありますか？／英検二級を持っているんですが、AO入試や推薦、一般入試に有利ですか？／合格はできなかつたけど英検取得に向けて頑張ったことなどは多少は評価されますか？

英検を受験し成果を収めていれば、それだけ英語学習にたいする意欲的な姿勢を示すことになります。その点は評価されるでしょう。ただ、実際に英検を持っているかどうかという点だけでなく、学科のアドミッション・ポリシーにもあるように、「英検2級程度の英語力」を身に付けているかどうか、またはそれに向けて実際にどのような努力を日々積み重ねているのかを示すことが重要です。日頃から英語を継続的かつ主体的に学んでいれば、その力は試験でもきっと発揮されるはずですよ。

・英検ではない検定でも授業外での活動での点数は上がりますか？

はい、課外活動として評価されます。英検を取得していない場合は、それ以外の活動内容が重要になります。

・活動報告書に載せられる実績は、アドミッションポリシーに関連しているものだけですか？例えば、運動系の部活での実績とか。

高校の3年間で実践したことで評価してもらいたいこと、アピールしたいことはできるだけ記載しましょう。

・学修計画書の書き方について教えてください。

大学で何を学びたいのか、どのような目標を掲げ、その目標を達成するためにどのような計画を立てているのか、そして大学で学んだことを将来どのように役立てたいのか、といったことについて、自分らしさが出せるように具体的に書くことが望ましいです。学修計画書は面接の準備にもなります。書きながら頭のなかを整理してみましょう。

・学校型選抜の小論は、去年の過去問とかを解けば対策になりますか？

難易度や形式は変わりませんので、過去問題を解くことは対策になります。日頃から英語の長文読解力を磨いておきましょう。